INMP 通信 No. 21

2017 年 12 月

編集： 安斎育郎、山根和代
翻訳者： 赤松敦子、狩俣英美、栗山究、寺沢京子、山根和代、山本桃子

核兵器禁止：オスロでの 2017 年ノーベル平和賞展示

オスロのノーベル平和センターは 2005 年に開館して以来、その年の新しい平和賞受賞者を祝う独自の展示を開催してきました。ノルウェーのノーベル賞委員会が新しい受賞者を 10 月初旬に発表してから僅か 8 週間後、授賞式の翌日である 12 月 11 日に来賓を招待して展示の開会式を開催するまでに展示を仕上げなければなりません。受賞者は、12 月 11 日、展示招待者向けの開会式に出席することが伝統となっています。この展示は 2018 年 11 月 25 日まで開催される予定ですが、ヨーロッパ初展示となる広島、長崎、京都からの展示物が中心となっています。「核兵器禁止」が、ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）の 2017 年ノーベル平和賞受賞を祝う展示のタイトルでした。

これらの貴重な展示物と共に、今年のノーベル平和賞担当写真家であるシム・チー・インによる独特な写真も展示されています。現代の核の脅威についての彼女の写真の連作は ICAN に捧げられたものでしたが、核兵器廃絶のための活動に参加するように呼び掛ける作品でもありました。

ノーベル平和賞センターのリヴ・トレス館長とこの展示の責任者リヴ・アストリッド・スヴェードルップさんから贈物を受け取るサーロー節子さん（11 月 11 日）
（写真：ペトラ・ケプラー）

この展示はまた、ICAN の国際的な核兵器禁止のための画期的な努力を文書で紹介しています。ICAN の努力は、2017 年 7 月に 122 の国連加盟国により賛同され、国連の核兵器禁止条約採択という結果をもたらしました。ハーグの平和のための博物館国際ネットワークの事務局を務めるペトラ・ケプラーさんは 12 月 11 日にこの展示の開会式に参加しました。

（翻訳：赤松敦子）

ICAN のロゴ

日本の平和博物館とオスロ・ノーベル平和センターの協力による展示

立命館大学国際平和ミュージアム
名誉館長　安斎育郎

10 月 6 日にノルウェーノーベル賞委員会は 2017 年のノーベル平和賞は ICAN に与えられると発表しました。その翌日、オスロのノーベル平和センターの展示担当責任者で INMP の理事であるリヴ・アストリッド・スヴェルドルップ氏は、他の理事にノーベル平和賞授賞式の翌日の 12 月 11 日にノーベル平和賞受賞者が公開する展示について提案を求めました。そこで山根和代さんが様々な展示のアイデアを出しました。その提案の中には彼女のお父さんの被爆体験、ご自身の被爆二世としての体験を表現した詩、被爆者の証言が収録されている DVD、被爆者の顔の型を取った平和のためのマスクの展示物、峠三吉や栗原貞子の詩、丸木位里・俊夫妻の『原爆の図』、被爆者の描いた原爆の絵、『はだしのゲン』などの被爆者についての漫画などがありました。

私は立命館大学国際平和ミュージアムに保存されている展示物について提案しました。また、10 月 19 日・20 日に広島平和記念資料館と国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館と長崎原爆資料館を訪問し、協力を求めました。

リヴさんは 11 月 15 日に来日され、京都と広島を訪れて原爆に関する 5 つの展示物を集めました。2017 年 12 月から 2018 年 11 月までと展示期間が長いため、借り出しできる展示物に制限がありました。この展示にかかわった日本の博物館は、ロザリオと腕時計（長崎）、カバンと防空頭巾（広島）、弁当箱（京都）を貸し出すことになりました。

このような協力が可能になったのは、INMP が平和博物館の国際ネットワークの価値と重要性を示してきたから

です。オスロでの権威ある展示とこのようなネットワークとの協力は、間違いなくこのネットワークの更なる発展への刺激となるでしょう。

（翻訳：赤松敦子）

11 月 17 日京都におけるリヴ・アストリッド・スヴェルドルップさんの歓迎会。INMP 通信の編集委員（安斎育郎、ロバート・コワルチェック、山根和代）および協力者と立命館大学の学生たち

展示「核兵器のない世界のために：あなたが大切にしているあらゆること」がメキシコ市で展示される

移動展示「核兵器のない世界のために：あなたが大切にしているあらゆること」が、創価学会インターナショナル(SGI)と核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)によって製作されました。40 枚のパネルからなる展示物は、最初 2012 年 8 月に広島で開催された核戦争防止国際医師会議(IPPNW)の第 20 回国際会議で紹介され、その後様々な国際会議で展示されました。2017 年 8 月メキシコ市でラテンアメリカ及びカリブ核兵器禁止条約（トラテロルコ条約）の 50 周年記念行事の際に、展示されました。条約は、その地域のすべての 33 か国によって署名、批准されましたが、それは世界で初めての非核地帯のための条約でした。またメキシコ市のトラテロルコ付近の三文化広場(Plaza de las tres culturas)で記念銘板の除幕式をしてお祝いをしました。式典には、その条約が順守されているかどうかを監督する国際的組織（メキシコ市にある）のオパナル事務局長である Luiz Filipe de Macedo Soares 氏を含め、大臣や大使が参加しました。9 月にイギリスのヨークで開催された核戦争防止国際医師会議でも展示されましたが、その情報は次の PDF で見ることができます。

this web address　また see　をクリックしてご覧下さい。

（翻訳：山根和代）

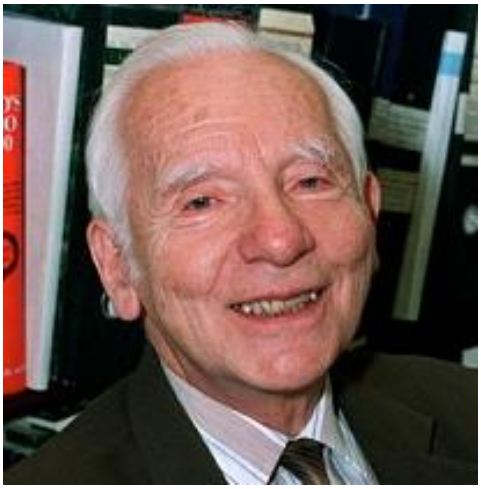
メキシコ市で展示の公開をする OPAL の事務局長

ジョセフ・ロートブラット卿、ポーランド遺産協会より名誉賞（イギリス）

広島と長崎が原爆により破壊されて50年後の1995年、ジョセフ・ロートブラット教授と「科学と世界の諸問題に関するパグウォッシュ会議」にノーベル平和賞が授与されました。彼は1957 年カナダのパグウォッシュで最初から中心的な役割を果たしてきました。

ジョセフ・ロートブラット卿を表彰した記念銘板：写真は Valerie Flessati より

ポーランド生まれの科学者ロートブラット氏は、ロンドンの中央部にあるグレイトラッセル通りにある英国博物館の向いの英国パグウォッシュ会議事務所で、長年仕事をしてきました。2017年11月6日の式典では、核軍縮と戦争の廃止を熱心に唱えた偉大な科学者を称えた銘板の除幕式が、ベリープレイスとグレイトラッセル通りの角で行われました。それはポーランド遺産協会（イギリス）がポーランド大使館と英国パグウォッシュ会議の援助を得て、行われました。スピーチを行った中には、ポーランド大使のアルカディ・ルゼゴスキー氏、パグウォッシュ会議英国支部代表のピーター・ジェンキンス氏、天文学者のロイヤル・ロード・リース氏、カムデン区長のリチャード・コットン氏がいました。



ジョセフ・ロートブラット卿

その銘板は建物の高い所に設置されたために、見つけたり読んだりするのが容易ではないのが残念です。その式典に関する情報や写真は、ポーランド大使館のウェブサイトで見ることができます。（website ）またパグウォッシュ会議英国支部のウェブサイトもご覧ください。 (website) そこではジョセフ・ロートブラット氏の人生や仕事に関する情報があり、また彼の人生に関するドキュメンタリー映画も見ることができます (*The Strangest Dream*) 。また、ワルシャワに 2016年に作られたジョセフ・ロートブラット財団のウェブサイトもご覧ください。(website)

（翻訳：山根和代）

アガ・カーンのガンジー博物館：インドのプーナ

デリア・マリア・クナーベル博士：
インドのプーナのガンジー博物館友の会代表

インドのプーナにあるアガ・カーン宮殿は、1892 年にサルタン・モハメッド・シャー・アガ・カーン三世によって建てられました。それは大飢饉によって苦しんだ人々を雇用するために建てられたと言われています。その荘厳さと美しい庭以外に、1942 年 8 月 9 日から 1944 年 5 月 9 日までインドが英国の支配に対して闘っている間、マハトマ・ガンジーがこの宮殿に投獄されていたことで有名です。1969 年アガ・カーン四世のカリム・シャー王子は、独立したインドにこの宮殿を寄贈しました。その宮殿はインドの自由のための運動に貢献したので、国立記念館と宣言されました。1942 年ガンジーがイギリスに対し「インドを立ち去れ」と要求した反英大衆運動を始めた頃、ガンジーと彼の妻のカスツルバ、彼の秘書のマハデヴ・デサイ、自由の闘志のサロジニ・ナイドウ、ミラ・ベン、ギルダー博士、スシラ・ナヤール博士は、すべてその宮殿に抑留されました。

この間に彼の妻であり精神的な友であったカスツルバ、そして彼の親友であったマハデヴ・デサイが亡くなりました。このような個人的な悲劇のため、彼はその建物に愛着をもつようになりました。

アガ・カーン宮殿

ガンジーは拘留中、外国の支配からの自由を求め最後の戦いのための戦略を練りました。今日宮殿の中にあるガンジー博物館では、この歴史を展示しています。4 つの部屋はそれぞれナイドウ・デサイやガンジーなど様々な個人の功績を展示をしています。ガンジーに関するホールでは、例えば彼の机、糸車、彼の妻が頭をガンジーのひざの上に置いてくつろぐ姿を描いた絵画などがあります。第五の部屋は講堂で、訪問者は短いドキュメンタリー映画を見ることができます。またサロジニ・ナイドウ図書館には、ガンジーの哲学や実践に関する本やジャーナルが 1000 冊以上あります。

ガンジーの遺灰のある記念碑

中庭には、ガンジーの遺灰のある記念碑があります。彼の妻やマハデヴ・デサイの遺灰もここにあります。この宮殿はまたガンジー国立記念協会の中心地でもあります。毎年 1 月 30 日（ガンジーの命日）と 10 月 2 日（彼の誕生日）には、人々が集まって様々なイベントや異教徒間の祈りをします。1980 年代リチャード･アッテンボローは、宮殿に 10 日間滞在し、ガンジーに関する映画を制作しました。彼はその映画でオスカー賞を受賞しました。

（翻訳：山根和代）

「ヘンリー・ディヴィド・ソロー展(ベルリンの反戦ミュージアムにて)」

ガンジーの人生や思想に重要な影響を与えた人の中に、アメリカの作家、ヘンリー・ディヴィド・ソローがいます。ソローは戦争や奴隷制に反対した人で、「市民的不服従」という独創的な論文を書き、ガンジーに影響を与えました。今回の展示は「真実を―非暴力の請願」と題されたもので、ソロー(1817-1862)生誕 200 年を記念して催されました。

ヘンリー・ディヴィド・ソロー

期間は 2017 年 11 月 9 日から 2018 年 1 月 26 日までで、英語とドイツ語で書かれた文や写真など、52 枚のパネルで構成されています。その中には、ガンジー、トルストイ、マーティン・ルーサー・キング、マーティン・ブーバーが、ソローについて書いた文もあります。展示は、ベルリンのガンジー情報センターのクリスチャン・バートルフとドミニク・ミージングによって構成されましたが、以前の展示も加えられています。それは、2009 年に催された「市民的不服従：奴隷制と戦争に抗して」で、ソローの著作からの引用や写真が豊富です。以前の展示、36 のパネルは このサイトで見ることができます。2018 年２月からは、今回の新しい展示も見ることができるでしょう。

ジョン・ソロー（ヘンリーの父）の工場で作られた鉛筆

（翻訳：寺沢京子）

マーティン・ルーサー・キング・ジュニア展と銅像（イギリス、ニューキャッスル）

50 年前の 1967 年 11 月に、マーティン・ルーサー・キング・ジュニアは、

イギリスのニューキャッスルを訪れました。ニューキャッスル大学から名誉学位を受けたのです。キングがイギリスの大学から学位を受けたのは初めてで、ロンドン以外の都市を訪問したのも、この時が初めてでした。

今回の展示は「偉大な善人を讃えて」と題されたもので、キングが訪問した際の裏話も紹介されています。

学位授与式のマーティン・ルーサー・キング（ニューキャッスル大学）

展示は大学の図書館で行なわれ、期間は 9 月 7 日～11 月 30 日でした。大学が特別に所蔵している珍しい文書や個人の記念物などが出されました。キングの訪問は一年以上前から計画されたもので、多くの魅力的なものが残されました。名誉学位への指名、訪問につながる準備、式典、訪問後に残されたものなど、全てが展示されました。大学は、ちょうど 50 年にあたる 2017 年 9 月 6 日に、キングの親友で訪問にも同行したアンドルー・ヤングに名誉学位を贈りました。

キングの像とアンドルー・ヤング（ニューキャッスル クロニクル）

ヤングは後にアメリカの国連大使になった人ですが、２メートルの高さのキング像の除幕を、大学に依頼されて行ないました。像の土台には青銅色の文字が刻まれていますが、それは、キングの力強い演説から取られた言葉「世界が直面する３つの深刻な問題：戦争、貧困、人種差別」です。半年後に彼が暗殺されたので、アメリカ以外で行なった最後のスピーチになりました。演説など、詳細はこのサイトで、像の除幕式はこのサイトで見ることができます。

キングの即興演説を含む式典の様子の記録は、1990 年代に入って再発見されました。キングの訪問に関する詳細や意義は、ブライアン・ワーズの『ニューキャッスル アポン タインでのマーティン・ルーサー・キング』の初めの部分に記されています。（ニューキャッスル：タイン ブリッジ出版、2017） この本には、ニューキャッスルなどの地域が、数世紀にわたって、自由と平等に向けて取り組んできた状況が記されています。また、50 年記

念の一環で出された、同様に優れた書には、教師用の教材もあります。それは若者たちに、戦争、貧困、人種差別を乗り越えて、現存する世界をいかに良く変えることができるかを、考えさせるためのものです。「イギリスでのマーティン・ルーサー・キング」と題した、その教材はダウンロードできます。

さらに、「自由都市 2017」と題したイベントが、市や大学や賛同者によって企画されました。特筆すべきは、アフリカ系アメリカ人の写真家、ゴードン・パークス(1912-2006)による写真展（「武器の選択」）です。アフリカ系アメリカ人たちの、アメリカで平等と自由を得るための苦闘が表されています。詳しいことは、このサイトで。

ベトナムにおける人種差別、貧困、そして戦争についても、キングは 1968 年 3 月 16 日にベヴェリーヒルズで、重要な演説を行なっています。暗殺される数週間前のことでした。30 分のスピーチは、このサイトで聴くことが可能です。

（翻訳：寺沢　京子）

ミシシッピ公民権博物館 ジャクソンで開館

新しい公民権博物館が、ミシシッピ州都のジャクソンで 9 月 9 日に開館しました。アメリカで最初の州立の公民権博物館ですが、ミシシッピ州 200 年記念(1817-2017)を祝う行事のひとつとして開館しました。州立公民権博物館建設資金に関する法律は、2000 年に作られ、建築は 2013 年に始まりました。

ミシシッピ公民権博物館のロゴ

公民権博物館の入り口は、同時に開館したミシシッピ歴史博物館の入り口と同じです。

ミシシッピ歴史博物館では、公民権博物館の生きいきとした展示の背景や内容を示しています。公民権博物館の８つの対話式ギャラリーでは、ミシシッピの黒人に対する組織的で残虐な抑圧と、州や国家を変えるようになった黒人の平等と正義のための闘いを示しています。その物語は南北戦争(1865)から 1970 年代中頃まで、一世紀以上の期間を取り上げて、幅広く年代順に示されています。それぞれのギャラリーの簡潔な説明や写真は、ウェブサイトをご覧下さい。website
公民権博物館は、そこで示している公民権運動のように、公民権運動の時代以来成された努力や、今日の課題を示

すことによって、訪問者が変わるような効果的な体験ができるようにしています。この博物館の開館に関する記事がガーディアンに載りましたが、それはここで読むことができます。
here
また地方、州、国家の公民権運動の活動家、政治家、黒人の聖職者が、開館式に参加したアメリカ大統領に抗議したことに関する記事が、ニューヨークタイムズに載りました。それは、ここで読むことができます。
here.

（翻訳：山根和代）

空から死が降り注いだとき―ベルギー・フランダース州・ディスクムイデのイーツェル・タワーの新たな展示

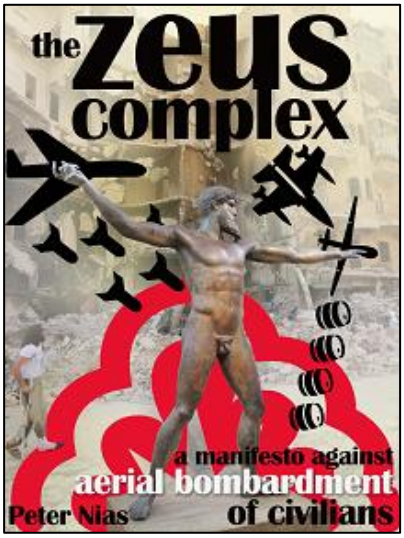
1918 年の第一次世界大戦の終結から 100 周年を記念し、2018 年、悲惨な戦闘の方法（陸上の化学兵器、海上の潜水艦、そして空からの航空機）に対する新たな紹介展示が始まりました。これらの戦争に関する新たな手段により、戦争の産業化あるいは戦闘の野蛮化が急激に進み、その傾向は第一次世界大戦の終結後も 20 世紀を通じて継続しました。

「天国から死が降り注いだとき」オランダ語の企画展ポスター

「When Death Came From Above（空から死が降り注いだとき）」、この新たな展示はディスクムイド（ベルギー・フランダース州）にあるイーツェル・タワー博物館で制作され、空からの戦争手段の導入や開発に関する資料が展示されています。

第一次世界大戦開戦時、航空学はまだ新たな分野でしたが、戦争によって急速な発展を遂げました。それは歴史上で初めて、空における、また空からの戦いが戦争において決定的な役割を果たした事象であったと言えます。飛行船、気球、そして飛行機は、当初こそ主に偵察の目的で使用されていたものの、戦闘用飛行機の発展にともない空からの爆撃が行われるなど、空中は新たな戦場となりました。

空中戦の進化は多くの物証によって示されています。それらを展示した本展は、2018 年 1 月 30 日から 8 月 15 日まで開催予定です。



この記事の読者は、『ゼウス・コンプレックス：民間人への空爆に反対する声明』（The Zeus Complex　2016）というピーター・ニアス氏による素晴らしい絵本に、興味をもつことでしょう。ニアス氏は前ブラッドフォード平和博物館（イギリス）の管理人を 2000～2010 年にわたって務めた人物です。

また『空の野蛮化（The Barbarization of the Sky)』（2016）や、ベルタ・フォン・ズットナー氏によって 1912 年に書かれた預言的な試論（‘News from The Hague’ INMP ニュースレターNo.20、2017 年、p13.参照）の英訳も、会場で目にすることができます。

（翻訳：山本桃子）

※編集者注：「ゼウス・コンプレック」は、神々の王たるゼウスが恐怖と破壊のために空から雷で攻撃し、また雨による空からの攻撃が洪水をおこし、ノアとその家族以外の人類を全滅させたという神話に基づく比ゆ的な表現。（安斎）

企画展「暴力と美―戦争への回顧」大英博物館（ロンドン）

大英博物館では、「朝日新聞展示」シリーズの一つとして、小さいながらも魅力的な企画展が始まっています。2017 年 11 月 9 日から 2018 年 1 月 21 日まで、歴史上、世界で戦争がどのように表象されてきたのかを 4 つの芸術品から発見する試みの展示会が開催されています。初めの 3 つは、大英博物館所蔵の古代コレクションであり、エジプトの戦場でのレリーフの破片、アッシリア帝国での戦場場面が描かれた破片、そしてトロイ戦争の神話的場面が描かれている古代ギリシャのアンフォラ（ワイン用の壺）が展示されています。これらの作品では、王政統治下における戦争の勝利とその栄誉が、高度な芸術様式と混じり合いながら描かれています。このようなイメージは、イランの芸術家ファリデ・ラシャイ(1944-2013)の作品とは対照的です。彼女が作成したデジタル映像のインスタレーションは、ゴヤの有名な作品群『戦争の惨禍』に大きな影響を受けています。スペイン人画家ゴヤが、イベリア半島戦争(1808-1814)への恐怖を作品に投影したことから、芸術における戦争の描写が大きく変わることとなりました。ゴヤは作品の中で戦争の犠牲者である個々の人々を描き、ときには恐ろしいほどの詳細を加えています（古代の作品で描かれた戦争賛美とは対照的に）。ラシャイのイン

スタレーションは、同博物館で購入された最初のデジタル作品となりました。
大英博物館の「朝日新聞展示」は、博物館のコレクションからテーマに沿った作品を一つあるいは数点紹介する展示シリーズです。2005 年のシリーズ開始から 40 回以上の企画展示が博物館入口近く（第 3 展示室）で開催されてきました。2006 年には、「平和のアート：詩人タゴールの絵画展」と題した企画展を開催しました。このように人気を博してきた展示会は、朝日新聞社の協力によって支えられてきました。朝日新聞社は、長い間、大英博物館の企業スポンサーであり、1 世紀以上にわたって、世界の芸術、文化、歴史を伝えるために日本で展示会を開催する社会奉仕事業に取り組んでいます。

（翻訳：狩俣英美）

ゴヤ『戦争の惨禍』
ダブリン（アイルランド）の企画展

英国博物館で開催されている企画展の中に、ゴヤの戦争を題材にした銅版画から影響を受けたデジタル映像インスタレーションが展示されています（前記事参照）。偶然にも、ダブリンにあるチェスター・ビーティ・ライブラリーでは、「フランシスコ・ゴヤ：戦争の惨禍」と題した企画展が開催されています（2017 年 10 月 6 日から 2018 年 1 月 21 日まで）。

Por una navaja（ナイフを所持していたため）

このライブラリーでは、シリーズ全体の 80 作品（1892 年の第 2 版から）を所蔵しています。この作品群は、ナポレオンによるスペイン侵略と戦いの余波からやってくる悲惨な光景―毎日のように繰り返される残虐行為や、ぞっとするような処刑、グロテスクに切断された死体、飢饉による影響などといった悲劇的な場面―が描かれています。

今回はじめて、ライブラリーではシリーズの 40 作品を公開しています。ゴヤのパワフルな作品は「美術史における最も偉大な反戦マニフェスト」と呼ばれてきました。そして、これらの作品は現代の観衆にも驚きや感動を与えています。ゴヤは 1810 年から 1820 年の間に作品の制作に取り組んでいましたが、彼の死後 35 年が経つまで、つまり、彼の作品が政治的に安全とみなされるまでこれらの作品は公開されませんでした。戦争の残虐さを描いた真の記録として、この銅版画は、近代フォトジャーナリズムの先駆けと

見なされています。ゴヤの戦争時の恐怖を描いた写実的な作品群は、エドゥアール・マネや、同じスペイン出身のサルヴァドール・ダリ、パブロ・ピカソといった、近代の偉大な芸術家にも影響を与えました。

（翻訳：狩俣英美）

カンボジア平和博物館のピース・アート・アピール

カンボジア平和博物館は、2017 年 9 月からバタンバンで建設が始まり、2018 年にはすでにオープンの予定です。同博物館は、所蔵コレクションが、ダイナミックかつ情報とひらめきに富んだ展示になるよう設計されています。兵器削減についての展示は、戦争から数十年でカンボジア国内にどれほどの高い普及率で銃器が拡散していったのかを強調しています。兵器削減への取り組みがはじまるきっかけとなったのは、「平和への炎」というセレモニーからでした。そこで、地域の人々は、銃の暴力を拒否する決意の象徴として、焚き火で銃器を破壊するパフォーマンスを行いました。このセレモニーに触発され、カンボジアのアーティストたちは、ピース・アート・プロジェクトとして、カンボジアの戦争の記録と兵器根絶のメッセージを作品に込める活動がスタートしました。カンボジア平和博物館では、現在、このプロジェクトから生まれたとてもユニークな作品の購入を検討しています。オウ・ヴァンディ氏によってデザインされた「白鳥のベンチ」という作品です。この作品は、2004 年のコンポンチャムで開催された「平和への炎」セレモニーで廃棄された AK-47s（自動小銃）から作られています。

白鳥のベンチ（オウ・ヴァンディ作）

ヴァンディ氏は、2003 年から 2005 年にかけて開催されたピース・アート・プロジェクトに参加した 23 人の学生のひとりでした。そのプロジェクトが、ヴァンディ氏にとって、金属の溶接や鍛造の方法、折れ曲がった AK-47 自動小銃を平和の表現として美しい像に作り替える方法を学ぶ最初の機会となったのです。現在、ヴァンディ氏はプノンペンにある国立カンボジア教育研究所で美術を教えているほか、作品を通して、エイズ啓発や 2009 年のカンボジア地雷撤去活動達成の喜びといった社会への強いメッセージを表現しています。

AK-47 自動小銃のゾウ（オウ・ヴァンディ作）

彼の作品の中でも特に、バタンバンにある「ナガ：平和の像」と「AK-47 エレファント」が有名です。二百万ものカンボジア人（ヴァンディ氏の父親や親族も含まれています）を殺害する大きな原因となったライフル銃は、ヴァンディ氏の手によって再び鍛造され、国の伝統的シンボルであるアンコールワットの創設を助けた心やさしい巨人へと姿を変えました。こちらのウェブページからオウ・ヴァンディ氏との短いインタビューを見ることができます。webpage

カンボジア平和博物館ではピース・アート・アピールと題して、「白鳥のベンチ」を購入するための資金活動を開始しました。購入に必要な費用の半分以上には達していますが、まだ 3,000 ドルが不足しています。読者の皆様へ募金の検討をお願いします。こちらのウェブサイトより募金が可能です。website

（翻訳：狩俣英美）

テヘラン平和博物館

エラヘ・ポーヤンデ氏は、様々なイベントや活動の報告をしています。例えば、国際学ジャーナルや国連インフォメーション・センターとの共同で、8 月 24 日にテヘラン平和博物館（TPM）にて行われた第 6 回国連セキュリティー評議会モデルワークショップなどでの活動報告です。ドイツにあるベルクホーフ財団の協力により、9 月 19 日から 23 日の期間に、TPM にて「若者の対話と平和構築」というサマースクールを開催しました。また、同じ期間に、TPM から 4 人の学生ボランティアが第 96 回世界ピース・ボートの教育プログラムやワークショップに参加し、200 人を超える参加者にイラン国内の現状を伝えるためのプレゼンテーションを行いました。TPM では、国際博物館協議会（イラン ICOM）と児童平和文化促進議会（子どもに焦点を当てた様々な平和活動を行っている 10 の NGO 団体で構成されており、TPM は、この議会のメンバーでもあり事務局でもあります）との協力により、イラン国立博物館で開催された世界平和デーを祝いました。

平和を築く若者たちに向けた
TPM 初のオータムスクール

TPM では、11 月 13 日から 16 日の間、平和を築いてく若者たちに向けたオータムスクールを初めて開催し、14 歳の若い生徒たちと地域の活動家の方々が参加しました。平和と戦争、非暴力的コミュニケーション、国際市民権などが授業の主なテーマであり、参加者がインタラクティブ・シアター（演じる側と観客側の区別がない演劇スタイルの教授法）などの色々な新しい学習方法に取り組みました。8 月 29 日には、ハーグ（オランダ）で大使館に勤め、化学兵器禁止機関（OPCW）スペイン常任理事であるフェルナンド・アリアス氏が TPM を訪問しました。

アリレザ・ヤズダンパナ氏（化学兵器被害者・TPM ボランティアガイド）とアリアス大使とエドゥアルド・ロペス・ブスケッツ大使
テヘランにて

11 月末、アリアス氏は次期 OPCW ジェネラル・ディレクターに任命され、2018 年 1 月 25 日から就任する予定となっています。公人の訪問やワークショップなど博物館の近況の活動については、以下のウェブサイトをご参照ください。website

（翻訳：狩俣英美）

ひめゆり平和祈念資料館

ひめゆり平和祈念資料館は、「ひめゆり学徒隊」と呼ばれる 15 歳から 19 歳の女子学徒の沖縄戦体験を伝えています。日本の南端に位置する沖縄は、第二次世界大戦末期、日米軍の戦場となりました。沖縄では、戦争中に多くの男女学徒が戦場に動員され、命を落としました。ひめゆり学徒隊もその一つです。

ひめゆり平和祈念資料館は、今年４月に開催された第９回国際平和博物館会議の報告と、平和博物館の役割と魅力を伝える展示会を開催しています。

タイトル：「戦争体験を未来につなぐ―ヨーロッパ平和交流の旅・ひめゆりの次世代継承の現在」
期間：2017 年 12 月１日～2019 年３月 31 日

展示は２つのテーマに分かれています。
前半は第９回国際平和博物館会議と、その旅の間に訪れた４つの平和博物館の報告です。ザ・ピース・ミュージ

アム（イギリス・ブラッドフォード）、ミュージアム・オブ・フリーデリー（北アイルランド・デリー）、アンネ・フランク・ハウス（オランダ・アムステルダム）、戦争と女性の人権博物館（韓国・ソウル）の４つの平和博物館について、展示の手法や新しい視点について紹介しています。

後半は、ひめゆりの次世代継承の取り組みを紹介しています。
1989 年の開館以来、元ひめゆり学徒生存者は資料館を運営し、自らの戦争体験を語ってきました。今年 11 月に、資料館の累計入館者数は 2,200 万人になりましたが、その半数が、学校の生徒たちです。体験者から直接話が聞けるとあって、多くの学校が平和学習のために資料館を訪れています。

しかし、生存者が高齢になる中、戦争体験のない職員がどう彼女たちの仕事を引き継いでいくかは長年の大きな課題でした。その課題を克服するため、戦争体験者と戦争体験のない職員が、資料館でともに働きながら、どのように次世代継承について取り組んできたのかを報告しています。

ひめゆりの次世代継承をテーマに、第９回国際平和博物館会議を取材したドキュメンタリー番組を、ここで見ることができます。　「ひめゆりから HIMEYURI へ」
http://www.spiral-pf.com/rbc/2017/08/30/%e3%81%b2%e3%82%81%e3%82%86%e3%82%8a%e3%81%8b%e3%82%89himeyuri%e3%81%b82017%e5%b9%b46%e6%9c%8823%e6%97%a5%e6%94%be%e9%80%81/

（古賀徳子）

戦争と女性の人権博物館（ソウル）

ソウルにある戦争と女性の人権博物館は第二次世界大戦中日本軍による性奴隷制のために働くことを強制された女性の方々に捧げられています。この博物館は、9 年間の準備と建設期間を経て、2012 年 5 月 5 日に開館されました。

20 万人もの女性や少女が中国・日本・韓国・フィリピン・タイなどから誘拐、または強制されて日本軍の売春宿で強制労働させられ、その被害者の少なくとも 8 割は朝鮮半島出身者だったと見積もられています。初めて公の場でこのことについて被害者が発言したのは 1991 年、戦後 50 年近くの歳月が過ぎてからでした。この博物館は、1992 年に始まったソウルの日本大使館前での毎週水曜日の抗議行動や生き残った被害者が起こした裁判にも

数多く証拠書類を提供しています。

2011 年 12 月、1000 回目の抗議行動の日にハルモニの像が大使館の向かいに設置されました。(ハルモニとは「おばあさん」を意味する表現で「慰安婦」という婉曲的表現の代わりに韓国で使われています。) この博物館についてのより詳しい情報は、こちらのウェブサイト webpage とこちら this one をご参照ください。

日本軍による性奴隷制博物館は 1998 年にナヌムの家の中に開館しました。ナヌムの家は性奴隷制被害者のためにソウルに 1992 年に作られました。(後に廣州市に移りました。) 詳しい情報はこちらのウェブサイトをご覧ください。website

2017 年 7 月に韓国政府は、2019 年に日本の戦時性犯罪に関する調査研究所を設立し、その翌年には博物館を開館すると発表しました。その両方のプロジェクトはジェンダー平等省の監督により進められるということです。

12 月 27 日水曜日にソウルで、「慰安婦」の像の周りに立つ人々　2017 年に亡くなったかつて性奴隷にされていた 8 人の人々を表す椅子を置いて抗議行動をしている。

(翻訳：赤松敦子)

アジアにおける戦争の記憶プロジェクト (WARMAP)

上記の戦争と女性の人権核物館は、アジアにおける戦争の記憶プロジェクト(WARMAP)にも焦点を当てています。このプロジェクトには、アジアにおける戦争の記憶の様々な形の研究に関心を抱いている世界の大学や色々な学問分野の学者が取り組んでいます。WARMAP のウェブサイトには、多くのビデオ (各 5-10 分) が含まれています。そこには、広島平和記念資料館、長崎 (浦上教会、平和公園)、南京大虐殺記念館、カンチャナブリ (タイのクワイ川にかかる橋)、シンガポールの市民戦没者記念碑があります。

それぞれの所では、記念した場所の写真があり、また WARMAP のメンバーのよる記憶と遺産に関する討論もあります。その中には、そのような場所、博物館、記念碑の歴史や発展や意義、WARMAP、諸問題などについての議論が含まれています。WARMAP の詳細やビデオについては、ウェブサイトをご覧ください。 webpage.

(翻訳：山根和代)

アジア太平洋平和博物館・教育センター、トロント

2017 年 9 月 25 日にカナダのトロントで行われた記者会見で、同市に 2019

年に開館予定である「アジア太平洋平和博物館・教育センター」の計画が発表されました。同施設は、アジアにおける第二次世界大戦時の非道な行為に関する歴史意識への理解を促進すると同時に、平和と調和、そして現代のグローバル社会における市民性を促すために設置されます。

この会見発表は、1997 年にアジアにおける第二次世界大戦の歴史を学び保存するための協会、アジア戦争歴史保存会（Association for Learning and Preserving the History of World War Ⅱ in Asia；ALPHA)の創設者で、協会設立以来ミュージアムの設立を構想していたジョセフ・Y・K・ワン博士により行われました。

トロントで行われた ALPHA 記者会見の様子；Louis Au 撮影

同ミュージアムは、あらゆる角度からアジア太平洋戦争時に行われた非情な行為に焦点を当て、同様に、香港での戦いや戦時中の日系カナダ人の強制収容など、当時のカナダの役割を強調する展示を予定しています。またもう一方のギャラリーでは、原爆、南京大虐殺、731 部隊、強制収容所、従軍慰安婦などを取り上げる予定です。本館では、開館から 2、3 年の間に、年間 1 万人程度の学生、教員、研究者、退役軍人、そしてその他来館者の訪問を目指します。

アジア戦争歴史保存会は登録慈善団体であり、同団体は本博物館の建物を購入し、その財源は主としてトロントとバンクーバーの住民の個人寄付によって賄われました。

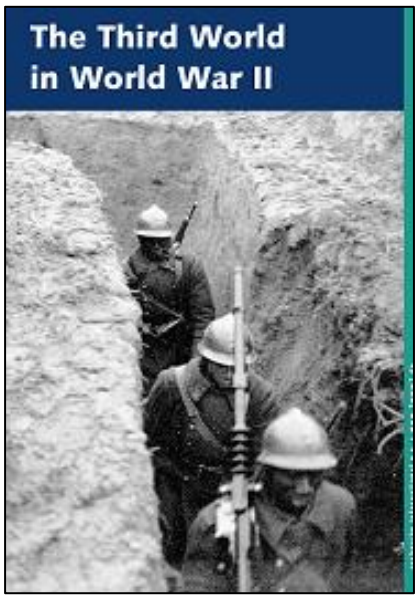
同ミュージアムの理事会議長であるワン博士は、1968 年に香港からカナダに移住し、医師としてはもちろん、社会奉仕活動や慈善活動の実践者としても周囲の多くの人々から尊敬を集めている人物です。より詳細な情報については、ミュージアムの素晴らしいウェブサイトをご参照ください。
website

（翻訳：山本桃子）

第二次世界大戦における第三世界に関する展示

20 年以上にわたり、ドイツのケルンを拠点とするフリーランスの学者やジャーナリストたちの集まりは、国際研究財団を創設した研究者グループに支えられながら、第二次世界大戦におけるヨーロッパ中心の歴史観を克服しようとしています。「第二次世界大戦における植民地下の歴史」に関するこの長期プロジェクトの最初の成果は、高い評価を得られた『私たちの犠

牲者は数えきれない－第二次世界大戦における第三世界』（ドイツ語）の出版でした。



この本は、2005 年にオリジナルが出版されましたが、2009 年にベルリンで初めて展示されて以来、各地を巡回する同名の巡回展カタログとしても取り扱われています。この展示の英語版は 2017 年 2 月、南アフリカはケープタウンにあるキャッスル・オブ・グッドホープにおいて初めて展示されて以来、各地を巡回しています。2018 年 1 月からは、ヨハネスブルグのホロコースト＆ジェノサイドセンターにて展示されています。より詳しい情報は、下記を参照ください。

www.3www2.de/index.php?option=com_content&view=category&layout=blog&id=48&Itemid=66

（翻訳：栗山究）

沖縄で開催された 第 24 回日本平和博物館会議

安斎育郎

日本平和博物館会議の 24 回会議が、12 月 7-8 日に沖縄県平和祈念資料館で開催されました。この組織は、広島平和記念資料館や長崎原爆資料館など、比較的影響力の大きい 10 館の平和博物館で構成されています。恒例の会議にはすべての博物館から参加者があり、活動経験や様々な課題について意見の交換をしました。広島平和記念資料館からは、「ピースツーリズム」について行政機関や旅行会社との協力の可能性について報告がありました。広島市はすでに原爆による被害に関するセミナーを観光バスとタクシー会社のために開催しています。また新しい観光ルートやスマートフォンを使った情報検索システムを提案して「ピースツーリズム」を促進するための非公式会議を開催しています。

国際平和ミュージアムでは、国連で核兵器禁止条約が採択され、ICAN が 2017 年ノーベル平和賞を受賞したという重要な時期に、広島平和記念資料館と長崎原爆資料館と協力して、核軍縮に関する展示を共同で作成することを提案しました。

ひめゆり平和祈念館は、沖縄戦で女子生徒が看護婦としてひめゆり隊として従事したことでよく知られていますが、戦争や紛争とは疎遠になってきている世代の人々にいかに対応し

ていくべきかについて議論することを提案しました。

広島平和記念資料館やひめゆり平和祈念館の代表者からの提案により、日本と海外における平和博物館の協力の促進について議論が始まりました。そこで私は最近のノーベル平和センターとの協力（2 ページを参照）を含め、INMP（平和のための博物館国際ネットワーク）の活動について話しました。参加者は会議後、素晴らしいボランティアガイドの案内で、平和の礎を含め、沖縄県平和祈念資料館の近くの幾つかの記念碑を見る機会がありました。

沖縄平和祈念資料館における第 24 回平和博物会議の会議の様子（(2017 年 12 月 7 日）

二日目に参加者は先ず対馬丸記念館を訪問しました。1944 年対馬丸で沖縄から本土に疎開しようとしていた子ども達 1,476 名が、アメリカ海軍の潜水艦ボーフィンの攻撃のため犠牲になり、子ども達の鎮魂と子ども達に平和と命の尊さを教えるために、この記念館ができました。その後参加者は、不屈館を訪問しました。ここは瀬長亀次郎氏(1907-2001)の記念館です。彼は戦後アメリカが沖縄を占領していた時の著名な政治家で、那覇市長(1957)や衆議院議員(1970-1990)として活躍しました。

日本平和博物館会議は 1994 年に創設されて以来、平和博物館の管理者や学芸員の間で意見の交流をする場として重要な役割を果たしています。そして日本の平和のための博物館の間の懸け橋として、さらに効果的に活動することが期待されています。

（翻訳：山根和代）

平和のための博物館・市民ネットワーク第 14 回全国交流会

安斎育郎

2017 年 12 月 9-10 日国際平和ミュージアムで、平和のための博物館市民ネットワークの第 14 回全国交流会が開催されました。この市民ネットワークは平和博物館、平和研究、平和教育に関心のある市民のネットワークで、1998 年 INMP 第 3 回国際平和博物館会議（大阪国際ピースセンターと国際平和ミュージアム共催）が開催された時に、作られました。このネットワークでは年二回ミューズと英語版 Muse という通信を発行していますが、最近のニュースは安斎科学平和事務所で読むことができます。homepage

井出明教授（追手門学院大学）は、いわゆる「ダークツーリズム」について講演をしました。最近日本ではダー

クツーリズムへの関心が高まり、2015年に彼は雑誌のような本「い本のダークツーリズム」を他の方と創刊しました。井出氏は特別講演で、国内と海外におけるダークツーリズム研究の外観を述べました。そして社会を歴史の暗い部分から見て理解をする手段としてのダークツーリズムの意味について詳しく述べました。

井出明教授のダークツーリズムに関する講演を聞く参加者（2017 年 12 月 9 日）

年一回開催される全国交流会では、過去の活動について 17 名が報告しました。山根和代氏は 2017 年 4 月にベルファストで開催された国際平和博物館会議を含めた INMP の活動や、INMP を通して行われたノーベル平和センターと日本の平和博物館の最近の国際協力について報告しました。（詳細は、2 ページの記事をご覧ください。）

次の全国交流会は、沖縄のひめゆり祈念資料館で開催の予定です。

会議では、市民ネットのメーリングリストの更新がされたこと、また会員同士の意見の交流が活発にされようとしていることについて、報告がありました。

参加者は会議後、京都鉄道博物館を訪問する機会があり、私が案内しました。よく知られていることですが、京都は最初 1945 年の原爆投下のターゲットのひとつでした。京都駅の近くに蒸気機関車を乗せてダイナミックに回転するターンテーブルがありますが、それが原爆投下目標でした。そこは現在京都鉄道博物館の中にあります。

平和のための博物館市民ネットワークのメンバーたち。背景は京都鉄道博物館にあるターンテーブルで、京都への原爆投下のターゲットにされていた。

（翻訳：山根和代）

「戦争を超えた世界」のビルボード・プロジェクト

平和博物館、平和庭園、そして平和の彫刻のすべては人びとに、戦争と暴力の文化を平和と非暴力の文化へ変えていくことの必要性と可能性を教育することを目的としています。戦争をやめさせるための世界的な運動に参加する人びとに刺激を与え、励ましている同様のメッセージは、適格な引用によっても伝えられ、正確な事実と数値で捉えられ、広告掲示板（ビルボード）にも描かれます。

ビルボードは、商品やサービスを広告するために商業世界で幅広く使用され、市街地、空港や鉄道のターミナルや高速道路の脇など、多くの人びとの関心の引き寄せられる戦略的な空間に設置されています。

戦争反対

積極的かつ着実に成長している「戦争を超えた世界」という組織は、新しい多くの聴衆に届けられる可能性を備えているビルボード・プロジェクトを立ち上げました。

米国の軍事費の３％が地球上の飢餓を終わらせる。「戦争を超えた世界」という組織より

この組織は、米国バージニア州のシャーロッツビルに本部を置き、150 ヶ国以上から 7 万人以上の会員を有しています。

戦争を超えた世界のロゴ

これまでに制作されてきたデザインの一覧は、こちらからご覧ください。
www.worldbeyondwar.org/billboards/

（翻訳：栗山究）

INMP とベルタ・フォン・ズットナー協会と平和宮の協力

ICAN が 12 月 10 日に、オスロでノーベル平和賞を受賞しました。ハーグでは、その２日前に記念の式典が行われました。平和宮の庭に、広島の原爆で生き残った柿の苗木が植えられたのです。平和宮とライデン大学植物園（オランダ最古の植物園で、世界でも最も古い植物園の一つ）の庭師が、グリーン・レガシー広島（GLH）・ イニシャティブから寄贈された苗木を植えたのでした。植物園のリニー・クーイさんとペトラ・ケプラーさん（INMP 所長で、最近設立されたベルタ・フォン・ズットナー平和協会の代表でもある）が、式典の指揮をとりました。

ジェコビン・ウィーリンガさん（フェリックス・モシェルスによって描かれたエリー・ダコマンの肖像画と共に）

また、ペトラ・ケプラーさんは、12月 22 日に平和宮の図書館で、フェリックス・モシェルスの記念式を催しました。フェリックスが 1917 年に他界してから、この日で 100 年になるのです。彼は熟練した肖像画家で、イギリスでも世界的にも平和活動に貢献し、ズットナーの親友でもありました。平和宮の司書、カンディス・アリフセインさんと、平和宮＆カーネギー財団のスタッフをしているジェコビン・ウィーリンガさんが、フェリックスの生涯と業績についてのスピーチをしました。彼は情熱的な国際的調停者の一人でした。

カンディス・アリフセインさん
（フェリックスが描いたスペインの少女の絵と共に）

INMP とベルタ・フォン・ズットナー平和協会は、ハーグの平和宮とオーストリア大使館と協力して、2018 年 6 月 9 日のズットナー生誕 175 周年の行事の準備を進めています。元オーストリア大統領、ハインツ・フィッシャー氏の基調講演が予定されています。6 月 8～10 日のプログラムには、ガイド付の平和宮ツアーもあります。ズットナー・ピースウォークや劇の公演もあります。韓国の外交官イ・ジュンさんが、ハーグ平和会議（1907）期間中に謎の死を遂げた事件に関しての劇です。イ・ジュン平和ミュージアムにも行きます。また、「ベルタ・フォン・ズットナーの 101 人の友人」（仮題）の本の紹介もあります。女性で初めてノーベル平和賞(1905 年)を受けたズットナーを、讃える方々の参加を歓迎します。詳しい情報が必要な方は、ペトラ・ケプラーさんまでメールして下さい。

（翻訳：寺沢京子）

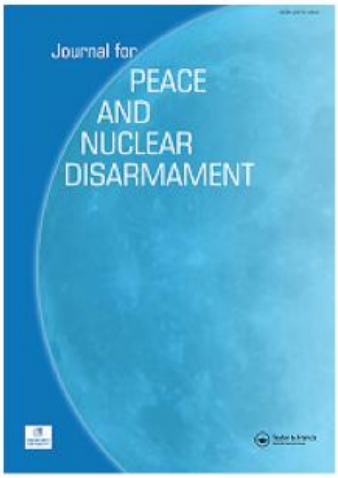
新刊本など

ベルファスト会議報告集

2017 年ベルファストで開催された国際平和博物館会議への日本人参加者のために、安斎育郎教授は日本語で会議に関する冊子を出版しました。参加者が国際会議や関連したイベントから最大限学ぶことができるようにするために、ベルファストの背景や有益な情報を盛り込みました。彼は山根和代と共に、国際会議後会議の報告や関連した情報を編集しました。(A4 サイズで 124 ページ) 11 月に INMP 日本支部によって、出版されました。

平和・軍縮ジャーナル

12 月『平和軍縮ジャーナル』が長崎大学で創刊されましたが、英語版で年 2 回出版されます。編集者は長崎大学核兵器廃絶研究センター（RECNA）のメンバーです。



この学術誌は英国の Taylor & Francis によってえ出版され、すべての論文は自由に読むことができるように公開されます。創刊号は長崎大学学長の河野茂氏によって紹介され、Ramesh Thakur の「日本と核兵器禁止条約: 歴史、地理、合法性、倫理性、人間性の間違った側面」という論文を含め、素晴らしい論文が掲載されています。核兵器廃絶研究センター（RECNA）の詳細は、ウェブサイトをご覧下さい。website. Ramesh Thakur 論文を読みたい方は次のウェブサイトをご覧下さい。
webpage.

平和博物館を通した平和教育

2017 年 8 月 23－25 日にマレーシアで開催されたアジア太平洋平和研究学会で、「平和博物館を通した平和教育」というパネルを山根和代が組織し、その報告が国際平和研究学会の平和教育委員会の通信（2017 年 11 月号 23 ページ）で紹介されました。読みたい方はウェブサイトをご覧ください。
webpage

教育原理と理論事典

『教育原理と理論事典』（The *Encyclopedia of Educational Philosophy and Theory*：Michael A. Peters 編集、シンガポールの Springer Nature Singapore 出版）には、平和教育に関する記事がいくつかあります。その中にピーター・ヴァン・デン・デュンゲン博士の

「平和博物館と公的教育」（‘Peace Museums and Public Education’）が含まれています。（2017 年 6 月 6 日にオンラインで出版）500 本以上の論文や著者を載せた目次は、次のウェブサイトで見ることができます。 website

編集後記

この通信は、ピーター・ヴァン・デン・デュンゲン、山根和代、安斎郁郎、ロバート・コワルチクによって編集されました。また日本語版の翻訳は、赤松敦子さん、狩俣英美さん、栗山究さん、寺沢京子さん、山本桃子さん、山根和代がボランティアで担当しました。この通信は、INMP の個人と組織をつなぐ重要な場です。また INMP の会員ではない方が世界の平和博物館の活動を知る上で、大変重要です。以前発行された通信は INMP のウェブサイトで読むことができます。website
年に 4 回発行されますが、定期的に読みたい方は、メールアドレスを次のメールにお知らせ下さい。
secretariat@museumsforpeace.org

2018 年 3 月に発行される次号に投稿したい方は、2 月中にお願いしま

INMP 第 10 回国際平和博物館会議の 2020 年日本開催にむけて

2017 年 4 月ベルファストで開催された国際会議では、2020 年には日本で第 10 回国際平和博物館会議を開催する努力をしているという発表がありました。
2019 年には「国際博物館会議」(ICOM) が、「文化のハブとしての博物館：伝統の未来のあり方」というテーマで京都で開催される予定です。
また、ご承知の通り、2020 年 7 月 24 日から 8 月 9 日まで東京でオリンピックが開催される予定です。したがって「第 10 回国際平和博物館会議」は、2020 年の遅い時期、できれば 11 月頃開催されることが望まれますが、現在各方面で開催に向けての協力関係が模索されています。ご期待ください。